

1. 調査報告概要表

作成日 平成21年11月27日

【評価実施概要】

事業所番号	2772402257		
法人名	有限会社陽春		
事業所名	グループホーム 陽春		
所在地	大阪府枚方市東田宮一丁目16番3号 (電話) 072-844-7588		
評価機関名	株式会社H.R. コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6番8-2号		
訪問調査日	平成21年9月28日	評価結果確定日	平成21年12月24日

【情報提供票より】 (21年9月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	5 人
職員数	9 人	常勤4人, 非常勤5人, 常勤換算2.8人	

(2) 建物概要

建物構造	木造・スレート葺 造り		
	2 階建ての	1 ~ 2	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000 円	その他の経費(月額)	21,000 円
敷 金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	200 円	昼食 500 円
	夕食	600 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 1,400 円		

(4) 利用者の概要 (9月10日現在)

利用者人数	5 名	男性	1 名	女性	4 名
要介護1		要介護2		3	
要介護3	2	要介護4			
要介護5		要支援2			
年齢	平均 80 歳	最低 76 歳	最高 85 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	香里ヶ丘有恵会病院
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設後5年となるが職員の離職が少なく、利用者と職員が顔馴染みの関係が自然に保たれている。利用者も5名と少人数で、職員は身体状況や気分を細やかに把握し、日々の暮らしを利用者個々の能力を活かした支援を行っている。毎年の評価結果を全職員で話し合い、課題を抽出しサービスの質向上にも積極的に取り組んでいる。地域との交流も自治会や地域包括支援センターと共に深める事ができるようにとりくむ姿勢がある。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目: 第三者4) 前回の報告書は職員全員で回覧し、改善について話し合った。前回指摘のあった災害時の対応について、非難経路の確認・備蓄の充実に取り組んだ。認知症サポーター講習会を企画し、地域交流を深める取り組みをしている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目: 第三者4) 職員全員で業務の振り返りや見直しを行いながら話し合い、自己評価票を作成し、管理者が完成させた物を再度全員で確認した。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目: 第三者4, 5, 6) 自治会副会長・民生委員・地域包括支援センター職員・利用者家族が参加し、2ヶ月に1回確実に開催している。利用者の近況・取り組み状況が報告され、出席者から提案・意見が出され、活発に意見交換が行われている。外部評価の報告も行い、サービスの向上についての話し合いの機会としている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目: 第三者7, 8) 家族来訪時、意見・要望を話しやすい雰囲気作りに心がけ、必ず話をする機会を設けている。来訪の少ない家族には電話の機会に、意見・要望を積極的に聞いている。苦情はほとんどなく、相談があれば、その都度、職員間で話し合い、家族に説明して解決している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目: 第三者3) 自治会に加入し、地区の防災訓練などに参加している。近隣の小学校・幼稚園の行事に参加すると共に、「こども110番」として地域活動にも協力している。自治会と地域包括支援センターと共に、認知症サポーター講習会を実施し、地域住民との交流を深める予定である。

2. 調査報告書

主任調査員氏名 森 洋子 / 同行調査員氏名 山本 明美

第三者	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「家庭的な環境のもとでその人らしく生活していただきます。」「地域の人達とのふれあいながら「楽しみ」と「生きがい」のある生活をしていただきます。」を運営理念としている。昨年度、職員で話し合い、地域住民との交流の下でという理念を加え、地域密着型サービスとしての役割を目指した内容となっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関に掲示し、管理者・職員・来訪者が共通認識できるようにしている。入職者には採用時説明し、職員全体には日々の話し合いの中で確認し、ケアの実践に反映できるように取り組んでいる。職員の異動がなく長期の勤務のため、職員全員に十分浸透している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、地区の防災訓練などに参加している。近隣の小学校・幼稚園の行事に参加すると共に、「こども110番」として地域活動にも協力している。自治会と地域包括支援センターと共に、認知症サポーター講習会を実施し、地域住民との交流を深める予定である。		

第三者	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3.理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の報告書は職員全員で回覧し、改善について話し合った。前回指摘のあった災害時の対応について、避難経路の確認・備蓄の充実に取り組んだ。認知症サポーター講習会を企画し、地域交流を深める取り組みをしている。今回の受審についても、職員全員で業務の振り返りや見直しを行いながら話し合い、自己評価票を作成し、管理者が完成させた物を再度全員で確認した。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会副会長・民生委員・地域包括支援センター職員・利用者家族が参加し、2ヶ月に1回確実に開催している。会議はリビングで、利用者の生活の雰囲気を感じながら行なわれ、利用者の近況・取り組み状況が報告され、出席者から提案・意見が出され、活発に意見交換が行われている。外部評価の報告も行い、サービスの向上についての話し合いの機会としている。		
6	9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の会合には必ず出席する他、市役所が近いため、頻繁に来訪し、担当者に相談している。運営推進会議参加によりホームと交流のある地域包括支援センターの職員と連携を取り、課題解決に協働している。		

第三者	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○ 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	来訪時に、記録・写真を見てもらい報告している。面会が困難な方には手紙・写真・電話で報告している金銭管理については出納帳を作り、家族に確認してもらっている。		
8	15	○ 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時、意見・要望を話しやすい雰囲気作りに心がけ、必ず話をする機会を設けている。来訪の少ない家族には電話の機会に、意見・要望を積極的に聞いている。苦情はほとんどなく、相談があれば、その都度、職員間で話し合い、家族に説明して解決している。		
9	18	○ 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設以来、離職・異動がなく利用者・家族・職員と馴染みの関係が構築され、安心した生活が送られている。職員間のコミュニケーションがよく、困難事例は全員で話し合い、解決し、協力し合って働き続けやすい環境を整備に努めている。		

第三者	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要に応じた内容を、OJTを中心に、随時研修している。外部研修は、事業所が情報提供し、希望者が参加しやすいように支援している。受講後は参加者が報告書を提出し、回覧により、伝達研修している	○	年間計画を立て、必要項目について計画的・定期的に研修を行うことが望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	3ヶ月に1回開催される地域包括支援センター主催のグループホーム連絡会に参加し、同業者と意見・情報交換し、サービスの向上に反映させている。管理者のみでなく、職員の相互訪問も行い、連携、交流に努めている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	自宅を訪問し、生活状況を把握し、その人らしい生活が継続できるように支援している。利用者・家族に見学していただき、お茶や食事を一緒にしたり、1日体験・体験入所するなど、円滑に入居できるように取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者が少人数で、職員の異動・離職もなく、馴染みの関係が確立されているため、家族的なかかわりが確保されている。日常生活の中で、できる事は共に行い、職員が利用者から学ぶことも多く、支え合う関係を構築している。		

第三者	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時のアセスメントで、利用者・家族の思いや意向を把握し、入居後の介護計画などに反映し、思いや意向に沿った生活ができるように支援している。利用者が少人数であるため、入居後も思い・意向の把握が丁寧に行われ、表明が困難な利用者についても、時間をかけて行なわれている。		
2.より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	初回アセスメントシートを利用し家族からの情報でアセスメントを行い、職員の気づきや意見を取り入れ本人・家族の意向・意見を反映した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	2ヶ月に1回ケア会議で状況確認し、必要に応じて出来ること出来ないことシートを使用して現状に合った介護計画となるように取り組んでいる。		

第三者	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	それぞれのかかり付け医への受診支援を本人・家族の状況に応じて行っている。入院された時には、病院に面会に行き馴染みの関係の継続・必要に応じた医療機関との情報交換を行っている。家族の入院先へのお見舞い同行や近隣のローソンへの買い物、ファミリーレストランへの個別の外出支援など柔軟な対応を行っている。		
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1回内科医の往診により健康管理を行う他、家族・本人の希望のかかりつけ医への受診支援も行なっている。歯科は近隣で必要に応じて受診支援している。必要に応じて電話で相談できるよう医療機関と24時間連絡が出来るように整えている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用開始時より重度化や終末期についての方針を説明しており、理解を得ている。医療的な処置が必要な場合は医療機関への入院となるが、医療連携体制はとっておらず医療の必要性がなければ、医師や家族と十分に話し合い関係職員全員で方針を統一し支援を行なうようにしている。		

第三者	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1.その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシー保護については普段のケアの中で職員間で配慮していくように心がけている。職員へは、誓約書を取り個人情報保護法の理解を深め秘密保持の徹底を図っている。		個人情報保護・プライバシー保護・接遇などのマニュアルの作成が望ましい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	アセスメントの生活歴から利用者個々の生活リズムやパターンを把握し利用者が望むリズムを状況に合わせ送れるように支援している。利用者個々のその日の気分や体調に合わせた過ごし方が出来るように配慮している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	管理者が栄養のバランスや利用者個々の好み、季節を考え一ヶ月分の献立を立てている。職員と共に野菜の下処理や調理・配膳・後片付けを行っている。職員と共に会話をしながら食事を摂っており家庭的な雰囲気がある。		

第三者	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日午後2時～6時の間であればその日の気分や体調に合わせ入浴できるようにしている。介助が多く必要な利用者は、週3回の入浴になっているが、できる限り希望に合わせた入浴ができるよう支援している。入浴拒否がある場合は、声かけや誘導を行い入浴を勧めるほか、足浴や清拭で保清を保つようにしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	出来ることをアセスメントで確認し支援するようにしている。テレビや散歩やパズル・塗り絵など本人の力量に応じて楽しみごとを出来るようにしている。時々ドライブなどに出かけてるほか、季節に合わせた外出・外食などを行ない気晴らし気分転換を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	それぞれ利用者個々の状況や希望に合わせて散歩や外気に触れる機会を作るように働きかけている。		

第三者	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠することの弊害についてを理解しており、職員同士の声かけや見守りを行い、日中玄関は施錠しておらず自由に玄関から出て外気に触れる事ができるようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は、昼夜想定訓練を年2回実施している。自治会に災害時の避難場所の確認を行い、地区の消防訓練に参加し協力体制を整えることが出来るように取り組んでいる。非常災害時の備蓄を行うようにしている。緊急マニュアルを充実する必要性を感じている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ケアチェック表で水分・食事摂取量を把握し、過不足があった場合、早期に対応できるように配慮している。入れ歯の具合や体調などにより刻み食などの対応を行い必要な食事が確保できるようにしている。		

第三者	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の身体状況にあわせて椅子や家具を配置し利用者が自発的に動けるように工夫している。食事を作る匂いや職員や利用者との落ち着いた話声や動きがあり家庭的な雰囲気が感じられる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の使い慣れた家具や小物などの持込を家族に働きかけ利用者の趣味や嗜好に合わせた室内空間を作るようにしている。季節に応じた寝具の入れ替えを行い、居心地よく過ごせるように支援している。		

 は、重点項目。